

## 第5回定例シンポジウムならびに 第2回終了シンポジウムにあたって

CREST「量子効果等の物理現象」研究領域  
研究統括 川路 紳治（学習院大学理学部）

科学技術振興事業団が推進する戦略的基礎研究推進事業(CREST)の一つである「量子効果等の物理現象」研究領域の研究チームが研究成果を公開する第5回目のシンポジウムを迎えました。平成9年度採択の5チームについては、例年のように最近1年間の成果を報告する第5回定例シンポジウムですが、11月で研究期間が満ちた平成8年度採択の6チームについては、5年間の研究成果の集大成を報告するこの領域が迎える第2回終了シンポジウムとなります。

「量子効果等の物理現象」は、国（科学技術庁）がわが国における基礎研究を抜本的に強化する目的で定めた戦略目標の一つである「大きな可能性を秘めた未知領域への挑戦」の下に開かれた研究領域です。公募に応じた多数の研究チームの中から厳選された11研究チームによる、それぞれ、最近の1年間と全研究期間5年間の研究成果の報告がなされるにあたって、私の胸の中では、誇らしさとともに厳しい自省が交錯しています。研究に参加している皆さんも同じ思いでしょう。最近、CREST研究期間の終了は研究の終わりではなく新たな研究の始まりであるとして、意欲をたぎらせている8年度採択チームの声が届くのはまことに心強いことです。

今回のシンポジウムも、前回までと同じく公開としました。これらの、領域全体のシンポジウムが、「量子効果等の物理現象」に関連しているとは言え、研究内容と研究方法、またチームカラーも多様な研究チーム相互間はもちろん、この幅広い分野の多数の研究者による活発な討論に満たされた真のシンポジウムとして意義深い会合であるよう期待しています。

CRESTに参加している大学・国立研究所を主体とする基礎研究者は、高度の応用技術開発能力をもつ企業の研究者とも協力して、その能力を十分に発揮して頂くことができるような独創に富んだ基礎科学・基礎技術の研究成果をあげなければなりません。「量子効果等の物理現象」領域の研究活動を広く社会に理解して頂き、研究成果に対して忌憚のない意見と批判、そして厳しい評価を頂くために、民間企業を含む多数の方々にご案内を差し上げました。

今回の二つのシンポジウムが、さまざまな人々の間で厳しい批判を含めた活発な意見交換がなされる、真のシンポジウムであるよう、私は切望いたします。